

金並み高価 ロジウム合成

京大など成功 実用化目指す



ロジウムの合金を手にする京都大の北川宏教授

ナノテクノロジウム(超微細技術)を使い、原子レベルで2種類の金属を混ぜ合わせ、「ロジウム」の合金を作る

ことに京都大などのチームが成功し、22日発表した。ロジウムは排ガス中の有害物質を除去する性質に優れ、車

の排ガスを浄化する素材に使われる。

チームによると、天然のロジウムはレアメタル(希少金属)で、産出量は世界的に少なく、金に匹敵する高価格。今回の成功で価格を3分の1から10分の1に抑えられる。

京大の北川宏教授(無機化学)は「ロジウムの代替金属として、企業と共同研究し、実用化したい」と話している。成果は近く米国の化学専門誌電子版に掲載される。

チームは、通常は混ざりにくいパラジウムとルテニウムを同量溶かした水溶液を、200度に熱したアルコールに少しずつ噴霧して

加え、直径約10ナノメートル(10億分の1)の合金粒子を作ることになった。

チームは、通常よりも安価で高性能な人工ロジウムとして普及させたいとしている。